2023.7.14

case 05

「理想追求」のしくじりから学ぶ

探究のあり方を模索する中で見えた生徒との関わり方

今回は『「理想追求」のしくじりから学ぶ』と題して、宮城県の聖ウルスラ学院英智高等学校(以下、SUG英智)の長賢司先生にご登壇いただきました。実践の中で直面したしくじりの数々、同僚の先生には「先生を見ると心が折れる」と言われ、ショックを受けたこともあったといいます。では、どのような実践を行ってきたのでしょうか。

最初にはじめたことは授業改善。生徒用のタブレットを自費で購入し配布。学校では当時、誰も導入していなかったICTを授業に取り入れたそうです。理解度チェックのクイズや、見やすいスライド資料の作成をしながら、授業のアップデートを毎年繰り返していき、長先生は自分の授業を磨いていくことに専念していきました。
そもそもなぜ、自費でタブレットを購入してまで授業改善に取り組んだのでしょうか。きっかけは生徒からの授業評価だったそうです。5段階評価で3.8。決して低くはない値ですが、大変ショックだったと言います。これを契機に、授業改善に着手。次第に評価も上昇し、自分のやっていたこと、やりたかったことが生徒に伝わった！と思ったそうです。

また、探究学習にも“没頭”していたそうです。SUG英智では、個人プロジェクトに始まり、国際社会で活躍するゲストの話から世界のリアルな課題を知る機会を通しながら、身近な課題に落とし込んでいく。グループプロジェクトとして課題解決に考えたことは、校内でのアイディアコンテストや、企業のリアルな課題に向き合う国内研修旅行を踏まえた起業家への提案、外部の探究系のコンテストに出場するなど、多くの発表の機会を通して、結果を残していくことになったそうです。このことから「探究学習が子どもたちの成長に確かにつながっている」「自分が生徒たちに言っていることも正しいことなんだ」と、実践に自信を感じていたと言います。実際に大学進学の実績も、結果に直結していたそうです。このような経験から、自分の考え、思ったこと、やりたいことを信じて、どんどん突き進むようになります。長先生は、それらを含め多くの経験から「探究とはこうあるべきだ」という考えを強く持ち、さらに実践を推し進めるようになったと言います。

しかし実際には、「生徒たちがおもうようについてこない」「あまり楽しそうじゃない」という現実に直面。さらに、同僚の先生からは、「なんでも自分でやっていて、同じ教員として心が折れる」「先生みたいにやるのはしんどい」と思われてしまっていたそうです。その上、コロナ感染症が流行する中で、生徒がいない学校に直面し、「なんのためにここにいるのだろうか」とネガティブに考え込んだり、体調を崩してしまったそうです。ではどのようにして長先生は立ち直ったのでしょうか？

支えになったのは生徒とのコミュニケーション、そして立ち直りのきっかけとなったのは同僚の先生からの「自分の力が必要とされているよ」という声だったと言います。
それまでの実践の中で感じていた、自分は1人だけなんじゃないのか、周りからはよく思われていないんじゃないかという不安が解消され、直接的に仕事をしなくても、見ていてくれる人がいると思えるようになったそうです。また、「今日より最悪な日はないよ」という同僚の言葉から、気持ちを切り替えることができるようになり、

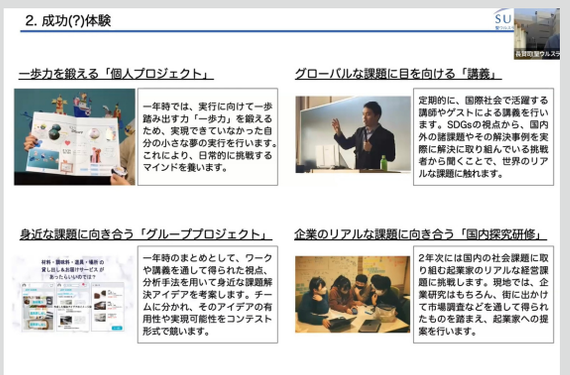
資料❶

資料❷

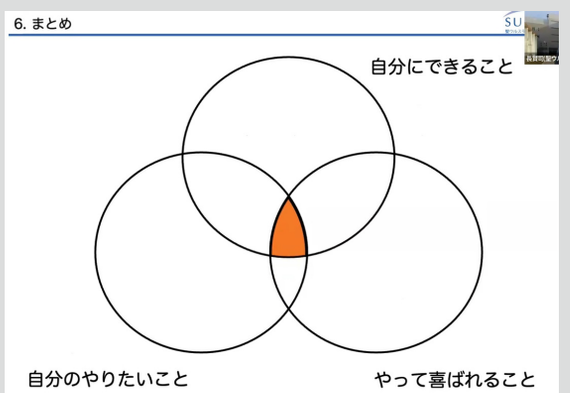
やりたいことをすれば何かに繋がっていく、どこかで誰かが見ていて、評価してくれていると考えながら、自信を取り戻すことができたそうです。

長先生は、同僚に助けられた経験から、1人で考えるのではなく、生徒や同僚の先生方の多くの声や考えに耳を傾けるようになったそうです。そうすることで「探究とはこうあるべきだ」とか「授業ではこうあるべきだ」という”理想論””べき論”から離れることができたといいます。
色んな他人の話に耳を傾けることで、積み上げた実践を思い切ってやめてみることもできるようになったそうです。教員が大事だと思うことは生徒が求めていることでは必ずしもないと考えたり、実際の生徒の声を聞いて設計を組み直して実施することで、実践が回るようになったと言います。そして、今まで自分1人でやっていたことを、理解を得てから同僚の先生に任せてみると、複数人であることが思った以上に実践が回ることになり、生徒の楽しい様子も増えたそうです。また、任せることで校内の理解や協力も増えていったといいます。

最後に、このやめる・任せる経験は、しくじりから得た最大の学びのように思います。やめること、任せてみることは勇気がいることです。しかし、他者の声に耳を傾け、ほんの少しだけやめてみる、一歩だけ引いてみることが、子どもたちの楽しい学び、同僚の先生たちとの協働的な学びにつなげる大切なポイントではないでしょうか。



資料❸



資料❹

例 しくじりメモ

- 教員がやりたい事が生徒の求めていることとは限らない
- やめてみる、任せてみると、今まで見えなかったものが見える

Speaker

Mr. しくじり 長 賢司 先生

宮城県 聖ウルスラ英智高等学校 教諭

飲食店での店舗責任者や、塾講師、運送会社など多様な職業に就いてきた経験から学びを設計する傍らで、JICA IQや東北プロボノに参加するなど、自身も探究活動を実践。